

熱中症のおそれがある場合の対応

千葉科学大学

【熱中症を疑う症状とは】

I度(軽度)・めまい・立ちくらみ

・生あくび・多量の発汗

・筋肉の硬直(こむら返り)

II度(中等度)・頭痛・嘔気、嘔吐

・倦怠感・虚脱感・判断力の低下

III度(重度)・意識障害

・けいれん発作

熱中症の疑いがある方がいた場合



呼びかけに

健康衛生室または学生課
TEL:0479-30-4504
にも連絡

反応あり(または不明)

反応なし

救急車を要請



健康衛生室へ連絡

健康衛生室:厚生棟
TEL:0479-30-4502
TEL:0479-30-4538
開室:9:00~17:00

可能なら所属
学籍番号・氏名
を確認して連絡



無理に水分を飲ませない



医療機関へ搬送

平日・土曜日 18:00
~翌朝 8:00 は
#7119 へ電話相談

【緊急対応チームが現場に急行】

健康衛生室または現場にて

①バイタルサインチェック

②身体を冷却

③経口補水液を補給



健康衛生室内で休息し経過観察

症状が軽快したら帰宅

症状悪化

【付き添いの対応依頼順序】

①チューター(ゼミ担当教員)

②学科長

③学生課などの職員

④場合によって緊急対応チーム

熱中症が疑われるときの応急対応

学内で熱中症のおそれがある方がいた場合、学内の緊急対応チームや救急車が到着するまでの初期対応によって症状の悪化を防ぐことができます。

①涼しい場所へ移動する

- 屋外で、近くにそのような場所がない場合には、風通しのよい日かげに移動し安静にしましょう。
- 可能ならすぐにクーラーが効いた室内や車内に移動するように促してください。



②衣服を脱がし、体を冷やして体温を下げる工夫をする

- 体の熱を放出できるよう衣服をゆるめてください。
 - 皮膚に水をかけて、うちわや扇子などであおぐことでも体を冷やすことができます。うちわなどがいない場合はタオルや厚紙などであおいで、風を起こしましょう。
- ※健康衛生室が霧吹きの水を持参しますが、常温の水を体に散布し、うちわであおぐことで、体の表面の水分が気化するときに体の熱を奪って体温を下げる効果が期待できます。



③塩分や水分を補給する

- 意識があり嘔吐の症状がなければ水分と塩分を同時に補給できる、スポーツドリンクなどを飲ませるようにしてください。意識がない場合には、誤って水分が気道に入る危険性があるので、水分を飲ませることはやめましょう。



※熱中症は命に関わる危険な症状です。迅速な対応が求められますので、付き添っている方はご協力をお願いいたします